

## ごみ拾いから始める海洋プラスチックごみ問題の解決

プラスチックごみは今、世界中で注目されており、海洋環境への影響が指摘されています。例えば、海に流出するプラスチックごみの量は世界中で年間800万トンと推計され、2050年には海洋中の魚の量を超えるとの試算もあります。

さらに、海洋プラスチックごみの約8割は街ごみ由来と言われています。ポイ捨てや不法投棄による意図的な投棄以外にも、様々な経路を通じてごみが海に流出しています。

海洋プラスチックごみ問題の解決には、そもそも散乱ごみを発生させないよう、個人として地域社会での消費行動や生活様式を見直していくことが重要になります。

身近でやれることからやってみること。  
ごみ拾いという身近なアクションを通じて  
海洋プラスチックごみ問題を知り、  
解決に向けた取組を始めてみませんか？



| 目次 |

海洋プラスチックごみと私たちの関係

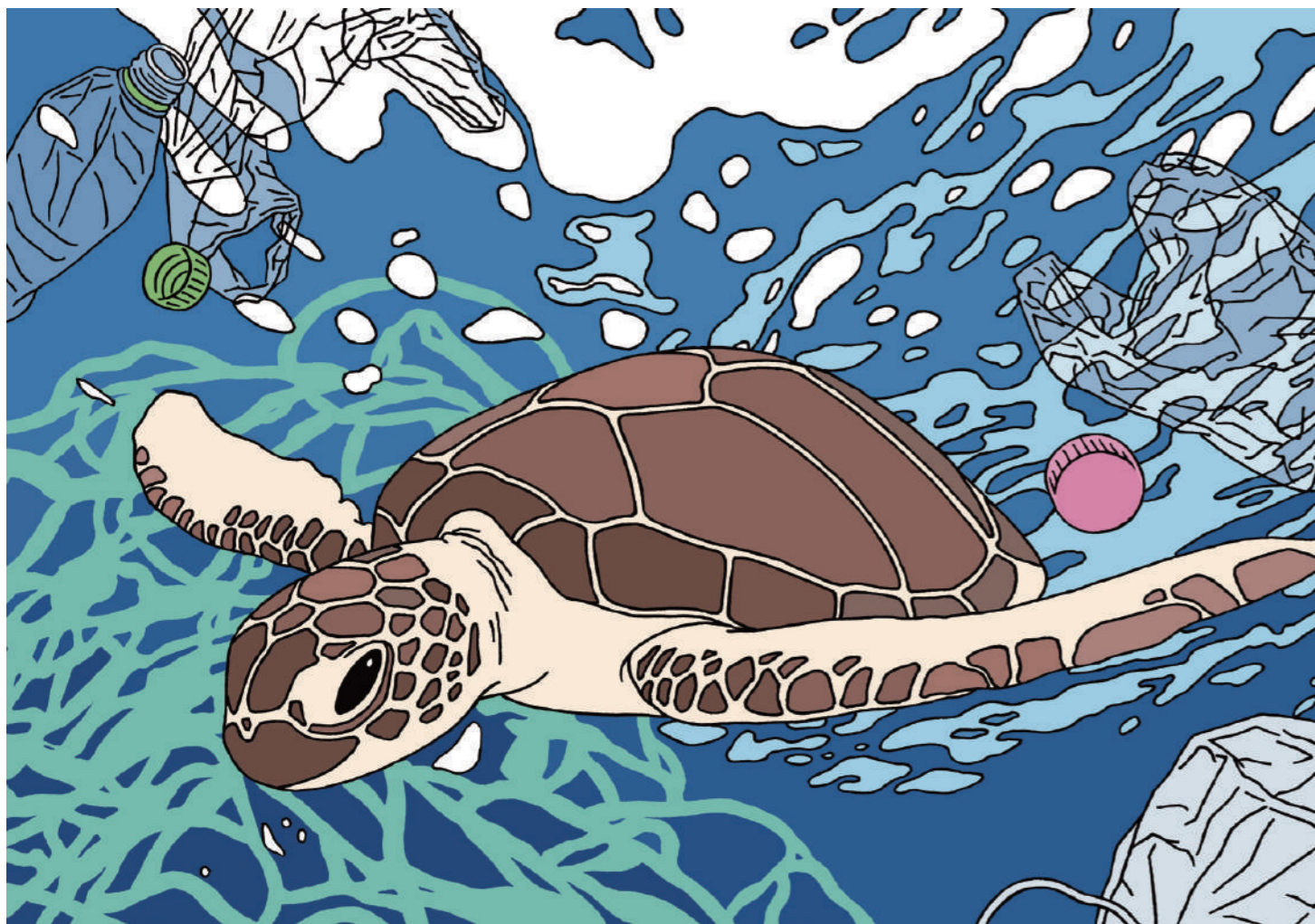
生活の中のプラスチック

ごみの定義と流出の流れ、それら防止するには？

ごみ拾いとその記録

ごみから見えてくる、家庭や会社で改善できるポイントを考えましょう

私たちが今できること



## 海洋プラスチックごみはどこから？どのくらい？

「海の中にゴミが漂っていること」はなんとなく皆さんも知っているはず。だけど、海ごみは何処からきていて、どのくらいの量があって、どんな被害を海にもたらしているのかは、いまい

ピンときていない人も多いのでは。海ごみと向き合うことは私達の暮らしと向き合うこと。海ごみと私たちの関係について考えてみましょう。

## 海洋プラスチックごみと私たちの関係

ペットボトルやコンビニのお弁当容器、歯ブラシに使い捨てマスク。軽くて丈夫で便利、さらに加工しやすく安価であることから世界中で利用されているプラスチック。それが今、地球に大きな負荷をかけていることを知っていますか？

現在、海へ流入するプラスチックごみの量は世界で年間800万トンと推定され、今のペースで増えていくと、2050年には海の中にあるプラスチックごみの量が魚の量を超えると試算されています。

「海にゴミを捨てないし、私には関係ない」と思うかもしれませんが実は、海に流れ込むごみの約8割は“街から出たごみ”と言われており街で暮らす私たちの生活から出たごみかもしれないのです。

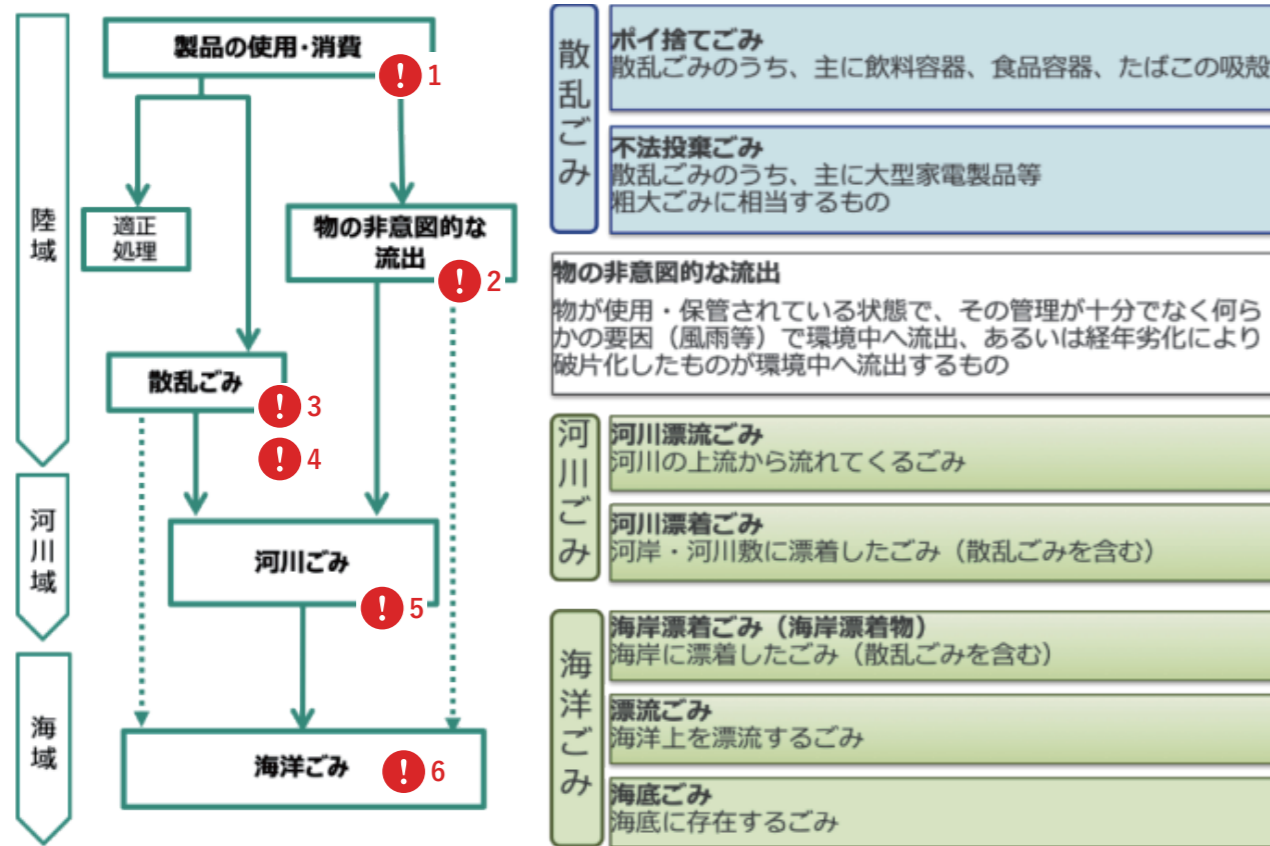
また、近年問題視されているのが「マイクロプラスチック」。海に流れ出したプラスチックごみが紫外線や波によって細かく砕かれたもので、小魚や貝などの生き物がそれを体の中に取り込み、さまざまな生き物の体内に蓄積することも懸念されています。

日本では、そうした私たちにも密接に関係した問題であることから海に出てしまったごみの回収処理に対して補助金が出ており、毎年数十億円かけて、何万人もの方々が綺麗になるまで片付けています。しかし、それでもごみは次から次へと流れ着くため、時間が経つと元の状態に戻ってしまい、きりが無い状況になっています。ごみを海に出してから拾うのではなく、ごみ自体が海に出ない暮らしが求められています。

今、街で暮らす私たちが知るべきことは今のプラスチックとの付き合い方は持続可能なものではないということ。ひとりひとりがプラスチックの課題を知り、プラスチックと賢く付き合うアクションを起こすことが地球の未来を握っていることを忘れないでください。

ごみの定義と流出の流れ、それら防止するには？

ごみの定義



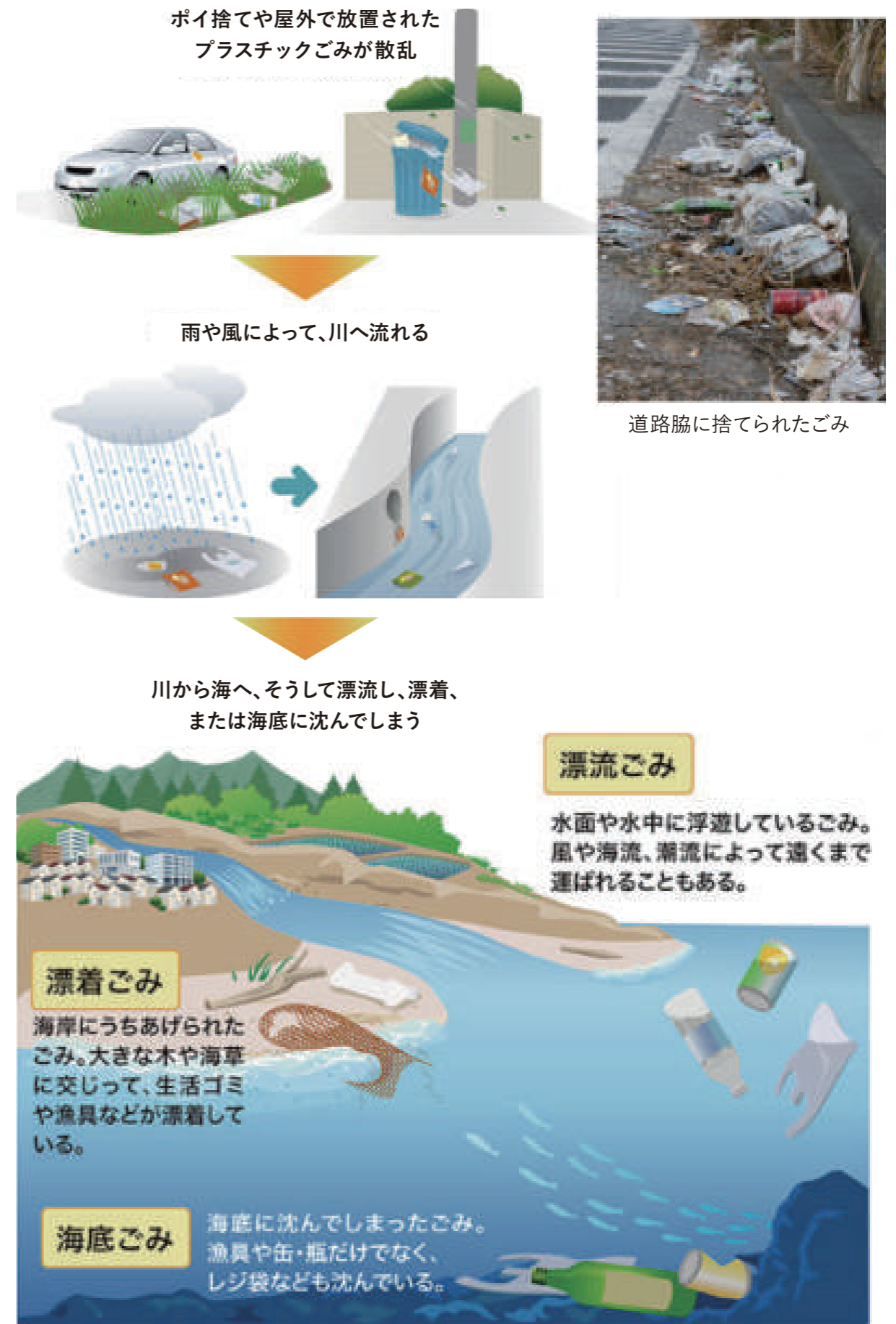
ごみの発生抑制対策

- ❶ 製品の使用抑制・代替 = 2R・3R対策
- ❷ 製品の意図しない散乱の防止 = 製品の適正管理
- ❸ ごみの散乱防止 = ポイ捨て対策・ごみステーション対策
- ❹ 散乱ごみ等の流出防止 = 地域美化
- ❺ 河川ごみの流出抑制 = オイルフェンスによる回収
- ❻ 海岸の清潔保持 = 海岸清掃

いろいろな抑制対策を記入してみましょう。

(例：ベランダの放置ごみをなくす、ごみステーションのごみ散乱を防ぐなど)

ごみの流出経路



## ごみ拾いとその記録

### ごみ拾いに際しての安全注意

#### ・注射器

※ 注射器を見つけた時は海岸管理者に情報提供をし、決して触らないでください。

※ 収集物報告用紙に、発見した場所や本数などがわかるように記載してください。

#### ・危険な生物

→ ヘビ類

人間を怖がります。こちらから攻撃をしなければ襲ってくることはまずありません。

見かけたら静かにその場を離れてください。

→ スズメバチ類

遭遇したら走って逃げず、その場にしゃがみましょう。

※ 甘いジュース、香水類、鳥の唐揚げなどの匂いに近づいてきます。

※ 特に秋のスズメバチ類は危険です。巣に近づくと威嚇してきます。

万が一噛まれたり、刺されたりした場合はすぐに病院へ！

### 落ちている場所の傾向

(例：ベンチの下、植え込みの中、自動販売機の横)

### 散乱ごみと落ちている場所の関係性についての気づきなど

見つけたごみを分類表に記入していきましょう (記入例：16個の場合 正正正正)

大分類		中分類	○	記入欄
プラスチック	1	ボトルのキャップ、ふた		
	2	ボトル 飲料用(ペットボトル) <1L		
	3	その他のプラボトル <1L		
	4	飲料用(ペットボトル) ≥1L		
	5	その他のプラボトル類 ≥1L		
	6	ストロー		
	7	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等		
	8	コップ、食品容器包装		
	9	ランチボックス、それに類するもの		
	10	ポリ袋(不透明、透明)		
	11	ライター		
	12	ウレタン		
発泡スチロール	13	発泡スチロール製 包装材		
	14	発泡スチロール製 食品容器		
	15	発泡スチロール製 コップ、食器		
ゴム	16	ゴム		
ガラス、陶器	17	ガラス、陶器		
金属	18	金属		
紙、ダンボール	19	紙、ダンボール		
天然繊維、革	20	天然繊維、革		
木(木材等)	21	木(木材等)		
その他	22	たばこ吸殻(フィルター)		
	23	生活雑貨(歯ブラシ等)		
	24	花火		
	25	その他プラスチック梱包材		

ごみから見えてくる、家庭や会社で改善できるポイントを考えてみましょう

Q1. 拾ったごみの特徴を考えてみましょう。

(例：ペットボトルのフタだけが落ちていたり、ラベルが落ちていた、など)

Q2. どうしてそれらは散乱ごみになってしまったのでしょうか？

(例：分別してまとめられていた袋に穴が開いて飛散していた)

Q3. 拾ったごみの特徴や散乱した原因を踏まえて、自分の生活や身近な人を巻き込んでできることを考えてみましょう。

(例：ごみステーションに散乱防止ネットやカラス除けグッズを設置する、SNSにごみ拾い活動をアップして認知度を高めるなど)

ごみ問題解決に期待される取り組み事例

不必要な使用を減らす



©福助:紙製ハンガー導入 ©花王:詰め替え不要の「付け替え」の開発

分解されるものを使う



©カネカ:海洋生分解性プラスチックPHBHの開発

使用後はできるだけリサイクル



©全清飲:ペットボトルのリサイクル

処理から漏れたら回収



©アディダス:海洋プラスチックごみを原料としたシューズの生産

上記を踏まえて、ごみの発生源を推定し、ごみ削減の対策を考えてみましょう。

ごみ拾い時における反省点などあれば記入してください。

(例：収集範囲、分別指定の把握をもう少ししっかりしておくべきだった、など)



## 私たちが今できること

「毎日の暮らしの中で私ができることってなんだろう?」「そもそも、本当に私の小さな行動で、世界の大きな問題を解決できるのだろうか?」「問題は見えてきたけど

身近な答えが見当たらないから動けない」とならないように、今からでも簡単にできる「小さいけど大切なアクション」を3つご紹介します。

## 私たちが今できること

### 使い捨てから「My」へ

2020年7月にプラスチック製レジ袋が有料化となったことで、レジ袋は「もらう」ものではなくなりました。多くの人が「Myバッグ」を持ち歩き、それが日常の風景となりつつあります。他にも「Myボトル」や「Myストロー」を仲間入りさせてみてはどうでしょう。Myバッグを使い始めて「お気に入りのバッグで買い物をすると気分がいい」と感じた人も多いはずです。

同じ感覚で、好きなデザインや質感のボトルやストローを使えば、日常がもっと楽しく、豊かになるかもしれません。「仕方なく」ではなく「楽しんで」生活スタイルを変えていくこと。これがプラスチックと賢く付き合う第一歩になります。

### 不必要な使用を減らしてみる

“プラスチックと賢く付き合うアクション”として提唱されているのが次の4つ

「不必要な使用を減らす」「使用後はできるだけリサイクル」

「分解されるものを使う」「処理から漏れたら回収」

なかでも日々の暮らしですぐに実践しやすいのが「不必要な使用を減らす」

レジ袋はもちろん、コーヒーや食べ物を買ったときにもらうコップのフタやカトラリーなど、普段何気なくもらっているけれど、必要でなければ受け取る必要はありません。

「自分が断っても誰かが使うでしょ」思うかもしれませんが、ひとりひとりが断り続ければ、社会の習慣は必ず変わっていきます。「いりません」のひとつは、自分が変わることで社会課題の解決に貢献していくポジティブな意思表示なのです。

環境に配慮したものを買う、紙包装のモノを買う、過剰包装となっていないものを買う、生分解性のものを買うetc

### 関連した様々なプロジェクトを知る

■海ごみゼロウィーク <https://uminohi.jp/umigomi/zeroweek>

日本財団と環境省の共同事業として、世界中で増え続ける海洋ごみの問題に対して一斉清掃活動を推進するプロジェクト

■レジ袋チャレンジ <http://plastics-smart.env.go.jp/rejibukuro-challenge>

日々のお買い物でマイバッグ持参を促し、一人一人の環境に配慮したライフスタイルの変革を目指すキャンペーン

■COOL CHOICE <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice>

温室効果ガスの排出量を削減するため、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」を推進するプロジェクト